

1 日時：平成 18 年 11 月 10 日（金） 4 時間目（12:00～12:50）

2 クラス：武雄青陵高校 1 年 3 組，

3 教科書：One World English Course I（池田書店）

Lesson 5 “Dolphins’ Power to Heal” 「人をいやすイルカの力」

4 題材観

イルカが単に「かわいいもの」「頭のいい生物」というだけでなく、現代生活の様々な病もいやしてくれる可能性を秘めた神秘的な存在であるということが前半に書いてあり、生徒にとって興味をもって読むことができる教材である。また、イルカと水中で戯れることは、一種の異種族間コミュニケーションであり、それは大きくは、地球は人間のためだけに存在するのではなく、人間も地球を共有する多くの生物の一つに過ぎないというところまで考えさせることができる教材である。

5 生徒観

落ち着いた雰囲気の中で生徒たちは学習している。教科書を音読する際は元気に声を出して読むことができる等、活動の際は積極的に参加し、英語への関心・意欲は比較的高いようである。しかし一方で、基本的な語彙や文法が身に付いておらず、英語に苦手意識を抱いている生徒も多いように思われる。単語を見て、その意味は分かっても、綴りが書けない単語が多いために、特に、英語を書くことに難しさを感じている生徒が多いようである。

6 指導観

英語で書くことを苦手としている生徒が、書くことに慣れ、書く力の基礎をはぐくむことができるような授業を行いたい。

従来、高校における英語の授業では、1 時間の授業で 1 つのパートを終えるのが平均的な進度である。しかし、この進度で授業を進めるとすれば、文法や内容理解に関する教師の説明が中心となり、生徒の活動の時間はごく限られたものになる。その結果、そのパートで習得すべき内容が十分に定着していない段階で、新たな内容が提示され、生徒は消化不良を起こしているように感じる。また、読解力養成の内容理解中心の授業になりがちで、書く力を養成する時間は不足しがちである。

このようなことから、今回の授業では 1 つのパートを指導するために 1.5 時間を費やすことを考えた。各パートの大まかな授業の流れは①内容理解②音読活動③Story Reproduction である。内容を理解した英文をバリエーションのある音読方法を通し数多く音読することで、語句や構文の定着を高めたい。また、キーワードやキーセンテンスをヒントとして与えたワークシートを用い、本文の概要を英語で書く活動(Story Reproduction)を行うことで更なる定着を図り、書くことへの抵抗感をなくし、書く力の基礎をはぐくみたい。今回は生徒が安心して取り組めるように、ワークシートには比較的

くの名詞と動詞を本文に出てくる順番にキーワードとして与えることとした。

言語材料としては、SVOC（現在分詞）とSVOC（原型不定詞）、関係副詞 **where** 等を学習する。定着させるだけでなく、生徒それぞれの生活に身近な例文を作らせ、それらを運用できる力を付けさせたい。

本課の最初の時間には、**Small Talk** やグループでの **Brain Storming** 等も取り入れてイルカに関するイメージを膨らませたい。また、説明を極力少なくし、活動を多く取り入れることで、英語に興味関心をもたせ、楽しい雰囲気の中で学ばせ、生徒中心の授業を心掛けたい。

7 本課の主な目標

- ア 大きな声で本文の音読ができる。[関心・意欲・態度]
- イ キーワードやキーセンテンスを参考に、本文の概要を英文で書くことができる。[表現の能力]
- ウ 本文の内容を正しく読み取ることができる。[理解の能力]
- エ SVOC（＝現在分詞）、SVOC（＝原型不定詞）関係副詞 **where** を用いた文の意味・構造を理解し、コミュニケーションの手段として運用できる。[知識・理解] [表現の能力]

8 指導計画

- 1 時間目：導入, **Part 1** (p48-49) (検証授業 1 時間目)
- 2 時間目：**Part 1** (p48-49) (検証授業 2 時間目)
- 3 時間目：**Part 2** (p49-50)
- 4 時間目：**Part 2** (p49-50), **Part 3** (p51-52)
- 5 時間目：**Part 3** (p51-52)
- 6 時間目：**Part 4** (p52-53)
- 7 時間目：**Part 4** (p52-53), **Comprehension**(p54-55)
- 8 時間目：**Grammar, Exercises** (p56-57)

9 教具

CDプレイヤー, ワークシート

10 1 時間目の目標 (11 月 9 日)

- ア **Small Talk** や **Brain Storming** を通じて、イルカについてのイメージを膨らますことができる。
- イ **find O ~ing** や **free O from ~** の構文を理解することができる。
- ウ 英語での質問を通して、パート 1 の内容を理解できる。

11 1時間目の授業展開

活動	教師のはたらきかけ	評価等
教師の簡単な英語での語り掛けを聞き、質問された場合は簡単な英語で答える。(Small Talk)(5)	写真を見せながら What are they? Have you ever seen dolphins? 等の簡単な疑問文で語り掛け生徒とのインタラクションをとり、授業の雰囲気作りをする。	
グループでイルカについて知っていることやイルカのイメージを出し合い、それを発表する。また、他のグループの意見を聞く。(Brain Storming)(15)	グループにワークシートを配布する。グループで意見を出し合うことでイルカに対するイメージを膨らませる。なかなか書けないグループには簡単な英単語で書くよう指導する。グループからの発表を板書する。	ワークシートNo. 1
教師の話す内容を注意して聞く。(Oral Introduction)(5)	数枚の写真を見せながら、Lesson 5 全体の概要について英語で話す。その際、全員が課の大まかな内容を理解できるように使用語彙や話すスピードに注意する。	
教師による新出語句、表現や構文の説明を聞き、新出単語は発音練習を行う。(New Materials)(11)	予習プリントを用い新出語句、表現や構文の説明、発音練習を行う。重要構文は例文を使用し重点的に指導する。	ワークシートNo. 2 ワークシートNo. 3
教科書を見ながらCDを聞き、音の確認をする。(CD Listening)(1)	発音や音の強弱に注意して聞くように指導する。	
教師の模範音読に続けて音読する。(Chorus Reading)(2)	模範音読を行うとともにどこが生徒にとって難しいか観察し、声が小さい所は数回繰り返し音読させる。	
本文の内容に関する英問9題(TF型5題, Q&A型4題に答える。)(Comprehension)(11)	TF型はリスニング問題とする。Q&A型は解答時間を与えて、じっくりと取り組ませる。難しい場合は解答の語数指定や書き出しのヒントを与える。また、解説の際に解答の根拠にアンダーラインを引かせ理解を深める。	ワークシートNo. 4 【理解】 英語での質問を通して、パート1の内容を理解できる。(ワークシート)

12 2時間目の目標 (11月10日)

- ア パート1の本文を音読することを通して、新出語句や重要構文 find O ~ing や free O from~を身に付けることができる。
- イ パート1の本文を音読することを通して、パート1の内容理解を深めることができる。
- ウ 与えられたキーワードや構文を使用して、本文の概要や要点を英語で書くことができる。

13 2時間目の授業展開

学習活動	教師のはたらきかけ	評価等
教科書を見ながら、教師によるパート1本文の内容に関する日本語での質問の答えとなる部分の英語を答える。 (Review)(3)	日本語で教科書の内容に関する5題程度の質問を行い、前時の内容について生徒に思い出させる。英語で答えやすいような質問をする。	
教師の模範音読に続け大きな声で音読する。(Chorus Reading)(2)	模範音読を行い、発音やアクセントの確認をさせる。生徒の声小さくなる部分は、数回リピートさせる。	
それぞれのペースで音読する。 (Buzz Reading)(2)	机間指導を行い、詰まっている生徒を指導する。生徒が詰まっている単語は全体に指導する。生徒は Chorus Reading で練習した読み方を自分だけで読めるか試すことになる。	
教科書を見ないで、教師についてリピートする。(Backward Reading)(5)	語尾の単語から始めて、どんどん前に単語を付けて1文を完成させる手法を用いる。通常、教科書を見ないでリピートする場合、語尾の音が弱くなるが、語尾の語句は何回も繰り返すため、最後まできちんとと言えるようになる。Chorus Reading で声小さかったところや Key Sentence を中心に行う。	
ワークシートのスラッシュで区切られた英文を見ながら、教師の合図に従い音読する。(Slash Reading)(2)	ワークシートの英文の番号の順に「Line1」「Line2」のように指示する。生徒はその指示に従い英語を読む。英語の意味のかたまりを意識して読むことに慣れさせる。	ワークシートNo. 3
ペアになる。生徒Aがスラッシュで区切られたところまで黙読し、顔を上げてそ	活動のやり方を説明した後は机間指導をする。目で見えた英語を一度脳に	

<p>の英語を言う。生徒Bはワークシートを見ながら、生徒Aが正しく言えれば Good, OK, 間違えば Once again, Close 等と言ってあげる。 (Read & Look up)(8)</p>	<p>プールして声に出させる。英語が苦手な生徒も自信をもって取り組めるようにスラッシュの区切りは短くする。ペアで行うことで、ゲーム性を出し楽しく活動させる。</p>	<p>ワークシートNo. 3</p>
<p>スラッシュで区切られたところまで黙読し、本文を見ないで、その英語をノートに書く。(Look up & Write)(5)</p>	<p>活動のやり方を説明した後は机間指導をする。英語の意味のかたまりを意識して一気にスラッシュの区切りまで書かせたい。この活動は音読から書く活動への橋渡しという位置付けである。</p>	<p>ワークシートNo. 3</p>
<p>教科書は見ずにワークシートの与えられたキーワードや構文を参考にして、本文の概要や要点を英語で書く。 (Story Reproduction)(15)</p>	<p>机間指導する。間違いを恐れずに書くように生徒を励ます。ワークシートには本文の内容を思い出せるようにキーワードや構文をヒントとして示しておく。自分が読んだ英文がどんな内容だったのか友人に伝えることを想定して書くように指導する。</p>	<p>ワークシートNo. 5 [表現の能力] [知識・理解] キーワードや構文を使用して本文の概要や要点を英語で書くことができる。(作品評価)</p>
<p>ワークシートの英文要約の空所に本文の内容に合うような語句を書き込む。 (Fill in the blanks of the summary)(5)</p>	<p>生徒を指名し答え合わせを行う。要約のモデル文を提示することで、生徒は自分が書いた英文を振り返ることができる。</p>	<p>ワークシートNo. 4</p>
<p>本文で読んだ内容について自分が思ったことや感じたことをリード文に続けて英語で書く。 (Guided Self Expression)(3)</p>	<p>机間指導をする。間違いを恐れずに自分の思ったことを素直に書くように生徒を励ます。ワークシートには文の書き出しを示しておき、生徒が取り組みやすいようにする。</p>	<p>ワークシートNo. 6</p>